小特集 ISDB-Tの国際展開

3. ブラジルの地上デジタル放送

3-2. 地上デジタル放送日本方式に関するブラジルとの協力関係

～日伯共同作業部会の開催～

布施田 英生[†]

キーワード ■ 地上デジタルテレビジョン放送, ISDB-T, 国際展開

1 ま え が き

2006年6月29日、ブラジル（伯刺西爾）のデジタルテレビ放送方式として、日本方式（ISDB-T）を基礎とするデジタルテレビ放送方式（SBTVD）の採用が決定した。本決定に伴い、同方式の速やかな導入と普及、ブラジルの電気電子産業の発展に係る協力に関する具体的事項を協議することを目的に、日伯両政府による日伯共同作業部会が発足した。2007年12月にはサンパウロ市にて地上デジタル放送が開始され、その後、リオデジャネイロ等合計4都市において放送が開始し、同国国民に広く親しまれるようになってきた。

以下、この日伯共同作業部会と南米各国へのISDB-T普及活動等の概要を紹介する。

2 日伯共同作業部会

日伯共同作業部会は、デジタル放送方式の導入・普及に関する協力、電気電子産業の発展協力のほか、他の南米各国に対し、日伯協力してISDB-Tの採用を働きかけることが同意されており、精力的に活動している。

日伯共同作業部会は、その分科会として、技術移転・標準化、電気電子産業支援、人材育成支援、知的財産権、ファイナンスの五つのサブグループを設置している（図1）。

図1 日伯共同作業部会の構成

[†] 総務省 情報流通行政局 放送技術企画官

"Cooperation in ISDB-T with Brazil -The Brazil-Japan Joint Working-Group on Digital Television-" by Hideo Fuseda (Director for Digital Broadcasting Technology, Telecommunications Policy Bureau, Ministry of Internal Affairs and Communications, Tokyo)

- (1) サブグループA（放送のための技術移転・標準化）の最近の成果としては、両国のデジタルテレビ放送の標準を調和させていくことに対する考え方が同意されたことである。
- (2) サブグループB（半導体産業などの電気電子産業支援）については、両国は双方で、「第一段階として半導体設計分野での人材育成等について円滑に事業が行われるよう努力する、次のステップとして、デザイン分野の更なる民間投資を促進する、最終段階として、バックエンド生産へのサポートもしくはフロントエンドのウェア生産への技術移転について協力を行う」との指標を設定することで一致した。
- (3) サブグループC（ブラジルでの放送を円滑に行うための人材育成支援）では、2008年11月にワークショップを日本で開催することが同意された。本ワークショップでは、共同研究のテーマに関し、日伯双方よりプレゼンテーションする予定である。
- (4) サブグループD（知的財産権）では、ブラジル側が地上デジタル放送関係特許の日本への無償のライセンス提供が可能であるとの表明をしたことが挙げられる。
- (5) サブグループE（ブラジルにおけるデジタルテレビ放送の円滑な導入・普及のためのファイナンス支援）においては、ブラジルの放送局が日本からデジタル放送用カメラを輸入・購入するための資金供与に関する個別融資契約を締結したことが挙げられる。

日伯共同作業部会のスケジュールとしては、年2回、日伯交互に開催されることとなっており、2008年6月18日～20日の日程で、東京にて第4回会合が行われた（図2）。次回開催は、2008年12月にブラジルで開催の予定である。

3 ブラジルにおけるワークショップ等の開催

第4回日伯共同作業部会において、ブラジル側より地上デジタル放送関係特許の日本への無償のライセンス提供が可能であるとの表明があったが、これは第3回共同作業部会において確認された知的財産権の相互主義をさらに進めたものである。ブラジル側で開発された新技術の特許を日本が無料で利用できることにより、日本はよりいっそう高

図2 第4回日伯共同作業部会風景

性能、安価な機器を利用できると予想され、我が国にとって、大きなメリットである。

第4回日伯共同作業部会において、日伯合同で知の人材育成のためのワークショップ(IPRワークショップ)をブラジルで開催することが合意されたことを受け、2008年7月22日、カンピナス市で開催された。日本側からは3名のIPR専門家等が参加し、ブラジルの学術・研究機関、科学技術省等の多数の参加があり、好評であった。同じく、ISDB-T技術ワークショップを日伯合同で開催するとの合意を受け、8月25日より同ワークショップがサンパウロ市にて開催されており、日伯の理解と関係がより深まっている。

4 南米各国に対する日伯合同ISDB-T普及活動

日伯共同作業部会では、日伯合同で南米各国に対するISDB-T採用の働きかけを継続していくことが合意されてい

る。本合意に基づき、2008年3月には、森前総務審議官が、コスタ・ブラジル通信大臣とともに、コルタサル・チリ運輸通信大臣に対して、ISDB-T採用の働きかけを行った。このほか、日本からの南米各国への働きかけの際には、現地にブラジルの関係者が同行するなどの体制をとっている。

さらに、2008年8月5日には、在ブラジル日本大使館主催で、南米の各国駐伯大使等を招き、ISDB-T採用を働きかけるセミナーを実施している。本セミナーにあわせて日本からも専門家を派遣し好評であった。

5 む す び

日伯共同作業部会の最も大きな成果は、2007年12月ブラジルにてデジタルテレビ放送が実際に開始されたことであり、その後も各都市にて放送が開始されている。またブラジル国内でも、デジタルテレビの受信機やテレビ受信機能付き携帯電話端末が販売されているなど、普及が進みつつある。ブラジルは、南米諸国の中でも経済的規模が大きく、周辺諸国への影響力もあることから、我が国としてはブラジルのデジタルテレビ普及を支援しつつ、ブラジルと共同でISDB-T普及活動を進めていくことが重要なことであると認識しており、今後とも日伯共同作業部会の活動を活発に行っていく。

(2008年9月1日受付)

布施田英生 ふせだ ひでお 電気通信大学通信工学科卒業。1990年、郵政省に入省。放送・電波行政に従事。この間、在セネガル日本大使館、国際電気通信連合(ITU)に出向。現在、総務省情報流通行政局放送技術企画官。